

本年度テーマ	主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について	事業内容	高知南中学校・高等学校（グローバル教育プログラム）
--------	------------------------------	------	---------------------------

概要・目的 本県におけるグローバル教育では、生徒が授業や課題研究に取り組む中で、論理的思考力や判断力、表現力を身につけるとともに、英語運用能力の向上を図り、将来グローバル人材として活躍できる資質を育成することを目的としている。生徒が学習を進めていく中で、どのような活動が必要で、それらをどのような手順で積み重ねていくのかについて、具体的に示して指導することが必要である。本年度は、これまでの研究を踏まえた実践の充実・普及と、開校する高知国際高等学校への継承をイメージして協議する。

P 平成30年度の当初計画 **D** 平成30年度の実行状況 **C** **A** 課題（●）とそれに対応する今後の取組（→）

研究の充実・普及 3つの方向性と7つの方策

中高一貫校として本校が取り組んでいる「主体的な学びや協働的な学び」がキャリア教育を発展させ、グローバル人材の育成につながるように、本年度はカリキュラム・マネジメントを視点とし、学校教育活動全般の改善を目指す。

探究型学習プログラム+英語教育プログラム 協働による目標達成方向性①

学校は教科会やチーム会を活性化させる

1. 高知南が目指す「グローバル人材」を再確認し、育てたい資質・能力を教科横断的に育成する授業づくりに学校全体で取り組む。
2. 組織的・協働的な授業づくりを目指し、教科会、チーム会を活性化させる。

方向性②

授業者は指導と評価の一体化を目指す

3. 生徒との目標の共有、目標達成につながる学習活動の設定と評価を通して、学習指導の改善を行う。
 - ・生徒の学びのプロセスを見取る。
 - ・目標に沿った評価方法を研究する。
 - ・英語科で学習到達目標（CAN-DO リスト）とルーブリックを活用する。
 - ・グローバル教育校内研修会において教科横断型の研究協議を行う。
 - ・主体的な学びにつながるよう、生徒の振り返りの手立てを工夫する。

方向性③

学校は研究成果を普及・発信する

4. 教員の授業づくりに対する意識の変化や、生徒の学びに関する変容を見取るために、意識調査等を実施し、分析する。
5. 県内の教員のニーズに応えられるよう、教材研究や授業づくり、評価のポイント等の資料を作成する。
6. グローバル教育の具体的な取組を発信するために公開授業を実施する。
7. 高知国際中学校・高等学校との連携を進める。

グローバル人材育成のための「主体的な学びや協働的な学び」について、全教職員が共通の手法・考え方を基礎として教科ごとに工夫改善を行い研究を進めていけるよう、「探究型学習プログラム」と「英語教育プログラム」に取り組んでいる。

取組①

- ・毎月中高合同教科会を設定し、主体的な学びや協働的な学びをととした指導の在り方について協議・計画し実践することとしており、学習指導要領を基にした、思考力・判断力・表現力を測る設問研究等を通して、教科としての指導目標の確認、指導方法の研究を行い、PDCAに取り組んでいる。
- ・探究型学習推進チーム会で、育てたい資質・能力について確認し、各教科の目標を踏まえた教科指導を研究している。
- ・外部講師を招聘（8月・1回）し、各教科の探究型学習推進員が生徒の主体的、対話的で深い学びを実現させていくための指導法や生徒の変容について見取る方法等について学び、教科会で報告し、教科としての取組に活かしている。
- ・英語科では、「英語教育プログラムハンドブック」を活用し、授業づくりや評価方法について協議をしている。

取組②

○探究型学習プログラム

- ・単元で目指す生徒の姿を明確にし、そのゴールを達成させるための毎時間の目標を設定し、生徒と共有している。
- ・生徒の学びを適切に見取るために、ルーブリックやポートフォリオ等を活用するための研究について推進チームを中心に行っている。
- ・授業づくりについて全教職員の意識を統一するために「高知県授業づくり Basic ガイドブック」を活用している。
- ・8月の研修会では、参加者全員（20名）が「課題改善に役立った」と回答し、「自分の授業づくりの際の事前協議で活用したい」、「生徒の姿や反応を予想して教材研究を充実させたい」等の感想が見られた。
- ・「探究型学習ハンドブック」については、4月当初の新任教員に対するオリエンテーションで使用した。また、探究型学習推進チーム会や8月に実施した「校内教員研修会」でも事例研究のために活用した。

○英語教育プログラム

- ・CAN-DO リストから単元の目標を設定し、バックワードデザインで単元の指導計画を立てている。授業においては、生徒ともその目標とルーブリック等評価について共有し、振り返る場面を適切に設定し、主体的に・協働的に学ぶこと、粘り強く取り組む姿勢を大切に指導している。
- ・筆記テストをコミュニケーションの視点、妥当性から改善している。
- ・6年間を通じて英語運用能力を高めることができるよう、まず、話すことの言語活動の系統性を見直しながら、指導をしているところである。
- ・外部講師を招聘（7月）し、発信力を高める授業づくり、四技能の総合的な育成について研修を行った。

取組③

- ・1学期に探究型学習教職員アンケートを実施した。
- ・統合に向け、高知国際中学校との情報共有を行うようにする。（交流授業、交流行事等の計画、実施）
- ・高知国際高校について中学校の職員が理解を進めるよう説明会を実施した。
- ・「主体的な学び・協働的な学び」をテーマに校内研修・公開授業（7月）を行い、目標の確認と現在の到達度を確認した。

グローバル人材育成のための「主体的な学びや協働的な学び」について、全教職員が共通の手法・考え方を共有すると同時に、教科毎に特性を生かした指導方法、評価方法を構築していく。

取組①

- グローバル人材育成を目指して取組のベクトル合わせ。
- 毎月の教科会に於いて、全体で共通して取り組む視点を設定し、全教科で足並みをそろえて取り組むようにする。
- 教科会での協議内容を集約し、全体で共有して課題解決に向けた意識を統一する。
- 生徒に「自分の力になる」、「こんなことができるようになる」と意識化させ、学習に臨ませることが必要である。
- 授業開始時に実施している生徒との単元並びに本時の目標共有が、授業全過程をととして意識化されることが必要である。目標に向かう生徒の変容を見取り、評価することに教科として取り組む。この際、個別・グループ活動の形態に関わらず継続して評価する項目や、活動形態別に新たに設定する評価指標について協議する。

取組②

- 評価に関する研究の充実。
- 教科で付けたい力について、適切な目標設定を行い学習内容や学び方との関係を研究し、ルーブリック等を作成・改善していく。
- ・探究型学習推進チームでゴールイメージを共有し、評価指標作成の目的を再確認する。
- ・各教科が身に付けさせたい思考力、判断力、表現力等を適切な場面、方法で評価できているかを協議する。
- ・各教科で育てたい力を評価するルーブリック等が、教科横断的にみて高知南中学校・高等学校として、グローバル人材育成となるものとなっているかを協議する。
- 単元の指導の前に、学年担当教員間で、どのような力を育成するのかを再確認した上で、ルーブリック等を活用して、指導する。

取組③

- 中高6年間の系統性の確認。
- 探究型学習教職員アンケートでは、授業づくりについての項目で中学校が肯定的評価が高い傾向となった。また、前年度との比較では、やや肯定的評価のポイントが下がっている項目があり、中高合同の教科会を機能させ、指導の系統性、学びの系統性を確立させていく。
- 中学校1年生からのキャリア教育について、キャリアサポート委員会等で協議する。（校外は年間2回、校内は学期毎の開催が基本）
- 高知国際中学校、高等学校との連携を更に進める。
- 公開授業、研究協議をととして、評価の視点を高める。

平成30年度 到達目標

- ・グローバル人材として活躍できる資質・能力を身に付けた生徒を育てるために、学校教育活動全体の繋がりを意識して組織的・協働的な授業改善を行うことができる。
- ・論理的思考力や判断力、表現力を育成する。
- ・学校評価項目の学習及び学校行事について、生徒、保護者の肯定的評価「そう思う」の評価を高めるよう取組の質を高める。
- 学習に関する項目で20%以上（H29:15%/肯定的評価全体約75%）、学校行事に関する項目で生徒、保護者各グループで+5%以上（H29:19.1~35.0%/肯定的評価全体約85%）